

令和8年第7回渋谷区教育委員会定例会会議録

- 1 開会日時 令和8年4月9日（木）午前10時00分
- 2 閉会日時 令和8年4月9日（木）午前11時00分
- 3 場 所 渋谷区役所4階教育委員会室
- 4 出席者

（委員）

教育長 伊藤 林太郎

委員 大日方 邦子

委員 田丸 尚稔

委員 平岩 国泰

委員 加藤 良太郎

委員 松本 理寿輝

（事務局職員）

教育委員会事務局次長

教育政策課長

未来の学校担当課長

未来の学校担当課長

学務課長

教育指導課長

教育センター所長

地域学校支援課長

中島 匡信

齋藤 貢司

堀江 崇

安田 世志治

竹内 修一

山口 信忠

今野 稔恵

山上 ますみ

（書記） 島田 直子 佐藤 颯

- 5 会議の概要 別紙のとおり

報告

(1) 令和8年度職員人事異動について

[資料1：教育委員会事務局職員 管理職・係長一覧]

(2) 令和8年度教職員人事異動について

[資料2：令和8年度教職員定期異動について]

(3) 令和7年度研修実施結果一覧について

[資料3：令和7年度研修実施結果一覧]

(4) 学校事故報告について

[資料4：令和7年度学校から報告のあった事故一覧 10月～3月]

議事運営等

○令和8年第7回教育委員会定例会を開会

○議事録署名に大日方委員を指名

■教育長報告要旨

○まず、3月26日に神南小学校で神南小建て替えに係る中高層説明会が行われた。改めて、保護者向けに説明を行った。また、30日に代々木大山公園近隣説明会を行った。地元の方や利用者の方の意見を踏まえ、より良い形で仮設校舎を作れるように進めていく。次に、4月6日に小学校入学式、4月7日に中学校入学式、4月8日に幼稚園入園式が行われた。最後に、今年度から、始業前の児童預かり事業「朝キッズ」を開始した。大きなトラブルもなく、これから更に事業を進めていく。

◆報告1

令和8年度職員人事異動について

—◇説明要旨 —————

(※別紙資料1に基づき教育政策課長が説明)

○令和8年度職員人事異動について報告する。資料は、令和8年4月1日現在の管理職及び係長について示しているものである。今年度は、大きな組織改正はないが、新たに教育指導課に課務主査を新設した。資料では、黄色くラインを引いている。こちらは、当該主査が育児休業期間中であることから、ポスト新設の上、教育人事係長からの内転である。なお、資料の記載中、区長部局等から転入した者、また、教育委員会事務局内での昇任、異動者等については、網掛けをして示している。

—◇質疑応答 —————

○なし。

—◇議事結果 —————

○了承する。

◆報告2

令和8年度教職員人事異動について

—◇説明要旨 —————

(※別紙資料2に基づき教育指導課長が説明)

○令和8年度教職員定期異動について報告する。初めに、幼稚園園長の異動である。今年度、園長の異動はない。次に、小中学校の校長である。まず、小学校

校長の異動である。初めに、区内転である。河口尚志校長は、臨川小学校から神南小学校校長へ区内転である。成田弥生校長は、猿楽小学校から代々木山谷小学校校長へ区内転である。次に、転入者である。小泉裕子校長は、東京都教育庁人事部職員課管理主事から臨川小学校校長へ区外から昇任での転入である。永山恵子校長は、世田谷区立用賀小学校副校長から猿楽小学校校長へ区外から昇任での転入である。秦弘行校長は、狛江市立狛江第三小学校副校長から鳩森小学校校長へ区外から昇任での転入である。続いて、中学校校長の異動である。中学校校長については、今年度の転入者はないが、上原中学校加納一好校長は、再任用継続である。続いて、幼稚園副園長及び小・中学校の副校長である。初めに、幼稚園副園長の異動については、区内主任教諭から昇任者が2名である。次に、小学校副校長の異動については、区内からの転任者が4名、区外からの転入者が3名、区内主幹教諭からの昇任者が1名、区外からの転入昇任者が1名の計9名である。次に、中学校副校長の異動については、区内からの転任者が2名、区内主幹教諭からの昇任者が1名、教育委員会事務局指導主事からの昇任者が1名、区外からの転入昇任者が1名の計5名である。続いて、資料にはないが転出者である。初めに、小学校校長である。代々木山谷小学校佐藤公信校長が、大田区立蒲田小学校への転出である。幼稚園長、中学校校長については、今年度の転出者はいない。次に、幼稚園副園長である。千駄谷幼稚園北村恭子副園長は、目黒区へ昇任での転出である。臨川幼稚園戸田真砂子副園長は、再任用終了である。次に、小学校副校長である。猿楽小学校市川愛美副校長は、八王子市立檜原小学校校長へ、渋谷本町学園小学校根尾智子副校長は、墨田区立柳島小学校校長へ、それぞれ昇任での転出である。神宮前小学校村田みのり副校長は、町田市立藤の台小学校へ、渋谷本町学園小学校余語亮副校長は、東京都教育庁人事部職員課へ、転任での転出である。西原小学校中町千恵子副校長は、大田区立高畑小学校主任教諭へ、降任での転出である。次に、中学校副校長である。笹塚中学校齋藤一芳副校長は、足立区立江北桜中学校校長へ、昇任での転出である。広尾中学校清水寿里副校長は、三鷹市立第三中学校主任教諭へ、降任での転出である。1ページ目の資料は、主幹教諭・指導教諭、主任教諭・主任養護教諭、教諭・養護教諭・栄養教諭、事務・栄養士について、校種別に、自校昇任、内転、転入等についてその人数を示している。最後に、教育委員会事務局である。初めに、転入者である。吉森祐司統括指導主事が、世田谷区立駒沢中学校副校長から転入である。細田梨絵指導主事が教育センターから転入である。次に、昇任者である。松本緑指導主事が、葛飾区立大道中学校主幹教諭から転入である。最後に、転出者である。清水雄一指導主事が、代々木中学校へ副校長として転出である。藤下幸延指導主事が教育センターへ指導主事として転出である。

--◇質疑応答 -----
○なし。

--◇議事結果 -----
○了承する。

◆報告 3

令和 7 年度研修実施結果一覧について

--◇説明要旨 -----
(※別紙資料 3 に基づき教育指導課長が説明)

○令和 7 年度研修実施結果を報告する。令和 7 年度は、教育管理職等研修、職層研修、必置主任研修、年次研修、担当者研修、転入時必修研修、課題別研修、授業研修について全 33 の研修を実施した。それぞれの研修について、実施回数と実施月日、内容、会場、講師、受講者数を示している。受講者数の総計であるが、資料の最終ページに示しているとおり、延べ 3706 名である。校種別の内訳は、小学校が 2465 名、中学校が 1038 名、幼稚園が 203 名である。ほとんどの研修において、実施後に受講者に対してアンケートを実施している。本日は、このアンケートの結果から、より充実した研修の実施に向けて、一部の研修について成果と課題をピックアップして御報告する。初めに、1 ページ目である。研修内容等に対して、肯定的な意見は「○」で、否定的な意見は「△」、「・」は質問に対するパーセンテージを表記している。まず、教育管理職等研修の校園長研修についてである。外部講師をお招きして、「子ども主体の教育活動～総合的な学習の時間・探究を柱に～について考える。」という内容で実施した。「教職員の意識変革を行いながら、子ども主体の学びを進めていく。」などの感想・意見があった。次に、3 ページ・4 ページである。必置主任研修の教務担当者会についてである。感想や意見として、生成 AI の活用に関する研修において、「非常に便利なことは、理解できた。しかし、シミュレーションして色々と指令を入れたが、自分のイメージとは大きくかけ離れたものだった。」など生成 AI の活用について否定的な意見があった。令和 8 年度も引き続き生成 AI の活用について研修を実施し、理解を深め、多くの受講者に活用してもらえるようにしていく。次に、5 ページである。必置主任研修の進路指導担当者会についてである。こちらは、「キャリアパスポートの細かなルールについて、把握していなかったものもあったので参考になった。」「企業や地域の方と連携した際、キャリア教育の視点を児童に提示し、シブヤ未来科の学びと関連付けるようにしていく。」などキャリアパスポートのことや探究につなげるような感想・意見があった。次は 10 ページ・11 ページである。担当者研修の人権教育担当者研修についてである。昨年度、受講

者から「研修内容に研究授業を入れてほしい。」との意見があった。これを受け、令和7年度は、幼稚園、小学校、中学校で授業参観を実施した。Inspire Highを有効活用していきたい。「アイデンティティ」というテーマについて、「生徒が真剣に授業に参加しているのがとても素晴らしいと思った。」など、多くの肯定的な意見があった。次に、16ページ・17ページである。探究コーディネーター研修についてである。年間を通して8回研修を実施し、探究「シブヤ未来科」について、探究の質の向上のために、シブヤ未来科各校の取組発表などを行った。受講者からは、「多くの専門家を呼びたいと思う。」「生徒の『問い』をブラッシュアップさせていきたい。」という意見がある一方で、「『My探究サイト』を全然見ていなかったの、反省した。」という意見があった。令和8年度は、より探究「シブヤ未来科」が推進されるよう、年度当初の校園長会、副校園長会、教務担当者会、探究コーディネーター研修等で、探究「シブヤ未来科」だけでなく、探究ポータルサイトやハンドブックなどについても、改めて周知していく。次に、20ページ・21ページである。プレゼンテーション講座、「探究を“探究”する」講座についてである。プレゼンテーション講座においては聞き手の思考や感情を意識した構成・表現を学び教師の説明力が向上したり、子供たちの指導に生かしたりすることができた。「探究を“探究”する」講座においては、探究学習における教師の伴走やフィードバックの重要性を共有できた。一方で、日常の授業や継続的な定着につなげていく仕組みづくりが課題である。令和8年度は重点取組01「子ども主体の「未来の学校」づくりの推進」が全校展開できるようにしていく。3月12日に小学校は特別活動主任を、中学校は生徒会役員担当者を対象に研修を行った。事業者やモデル校3校からの実践事例発表などを行った。受講者からは、「まずは、子供と一緒に考えることから始めたい。」「実践事例を参考に、自校でも取り組んでいきたい。」など多くの肯定的な意見があった。これを受け、令和8年度は「特別活動主任・生徒会役員担当者会」を実施する予定である。今後も、研修を通して上がってきた現場の声などを踏まえた研修を実施できるよう、更なる研修の充実を検討していく。

—◇質疑応答 —————

(加藤委員)

○いろいろな研修が実施できている。参加者の増減についてはどうか。

(教育指導課長)

○昨年度と比較し増加しており、関心が高まっていると言える。

(加藤委員)

○研修に参加できるよう時間の工夫はしているか。

(教育指導課長)

○水曜日の午後をTLD(Teacher's Learning Day)として、研修に参加できる時間を確保している。

(教育長)

○法定で決められている研修と区独自で行っている研修はどのようなものがあるか。

(教育指導課長)

○法定の研修は、年次研修である若手教員育成研修や中堅教諭等資質向上研修等がある。区独自の研修は、担当者研修である各教科の研修や探究コーディネーター研修等がある。

(教育長)

○これだけの回数を実施していて素晴らしいと思う一方、研修漬けになっていないかとも思う。研修の回数については、見直しても良いのではないか。

(教育指導課長)

○研修の回数については、昨年度と比較して減らしているが、受講者は増えている状況である。

(松本委員)

○生成AIの活用に関する研修もあるが、先生は生成AIをどれくらい使用しているか。

(教育政策課長)

○昨年度末時点で、3分の2程度の先生が使用している。

(教育長)

○使用開始当初は3分の1程度であったが、学校長の周知等もあり、多くの先生に使用いただいているという印象である。

(加藤委員)

○使用する生成AIの種類を指定しているか。

(教育政策課長)

○2種類の生成AIがあり、それぞれ渋谷区の環境の中で使用できる。

(加藤委員)

○種類を増やしていくことは難しいか。

(教育長)

○セキュリティ上、様々な種類を使用するのではなく、区と契約しているものを提供している。

(大日方委員)

○格差が広がらないうちに、初心者向けの生成AIの研修を行ってはどうか。

(教育指導課長)

○習熟度に合わせた研修の実施を検討する。

(田丸委員)

○部活動指導員のような外部人材も研修に参加することは可能か。

(教育指導課長)

○他自治体で実施している例もあるので、検討する。

(田丸委員)

○子供の健康に寄与するような内容の研修を実施していただきたい。

(教育長)

○学びとスポーツ課とも連携しながら進めていくのが良いのではないか。

(田丸委員)

○部活動指導員にも渋谷区の目指す教育についてもインプットしてもらうのが良い。

(加藤委員)

○区立中学校の特色づくりプロジェクトについて、どのような研修の形を考えているか。

(教育指導課長)

○今後、どのような研修を実施することができるか考えていく。

(教育長)

○学校単位で必要なものについては、各学校で講師を呼び、研修を実施している。

—◇議事結果 —————

○了承する。

◆報告 4

学校事故報告について

—◇説明要旨 —————

(※別紙資料 4 に基づき教育指導課長が説明)

○学校事故報告について報告する。令和 7 年 10 月から令和 8 年 3 月までの全体の事故発生件数は 50 件である。令和 6 年度と比較して、7 件の増加となっているが、校種別に見ると、幼稚園は 2 件で前年度比プラスマイナス 0、小学校は 35 件で前年度比プラス 6 件、中学校は 13 件で前年度比プラス 1 件である。事故の種類別では、交通事故が 5 件発生した。内訳は、幼稚園が 0 件、小学校が 5 件、中学校が 0 件である。発生状況であるが、全て小学生が登下校中に自転車と接触した事故である。交通事故でのけがの状況であるが、打撲が 4 件、その他 1 件は診断名なしである。また、アレルギー事故が 1 件発生した。状況であるが、小学校 5 年生が、理科の実験中に銅線の被膜を剥がしつなげる作業を行った際にアレルギー症状を起こしたものである。次に、安全指導と再発防止に向けた取組についてである。毎月の校園長会や生活指導担当者会において、区内の事故発生状況を共有し、交通安全指導及び生活安全指導、アレルギー対応の徹底について周知を行っている。各幼稚園や学校において指導する際には、教育委員会で配布している交通安全教育用図書や東京都の動画教材等を活用することや、警察と連携した交通安全指導を行うよう助言している。その他、中学校では、スケアードストレートを実施し、スタントマンによる事故の再現を通して、交通ルールを順守することや自転車乗車時のヘルメット着用の大切さを学ぶ機会を設定している。また、生活指導担当者会に警察署の職員の方にお越しいただき、教員向けに、交通事故の現状や交通安全指導のポイント、児童・生徒及び保護者への啓発の重要性について指導いただいた。引き続き、警察や家庭と連携して、子供たち自身が、危険を予測し、事故から身を守る力を身に付けられるよう、支援や指導の充実を図っていく。

—◇質疑応答 —————

(加藤委員)

○事故の種類で分けることで、今後の対策も立てやすくなるのではないか。

(教育指導課長)

○事故の種類で整理してお示しできるよう、枠組み等について検討していく。

(田丸委員)

○上半期と下半期でけがの発生数に差はあるか。

(教育指導課長)

○上半期の事故発生数は44件、下半期は50件である。

(松本委員)

○交通事故の発生について、地域ごとの特性を考慮した上で、何か対策を行っているか。

(教育政策課長)

○小学校を3つのグループに分け、それぞれ3年に1回、定期的に通学路安全安心点検を実施している。点検時に出た要望については、道路管理者を始めとする関係機関に対応を依頼している。

(大日方委員)

○家庭科の授業で事故が発生しているが、先生以外にサポートする人はいるか。

(教育指導課長)

○保護者に協力依頼を行い、人数確保に努めている。

(大日方委員)

○保護者だけではなく、地域の方にも声をかけることができないか。

(教育指導課長)

○実施した事例があるので、各学校へ周知し、人員の確保に努めていく。

――◇議事結果 -----

○了承する。

議事終了 閉会

上記記載の記録について相違ないことを認め、ここに署名する。

教育長 伊 藤 林太郎

委 員 大日方 邦 子